

Maruoka Castle



OSHIRO  
FUKUI



KOGITSUNEMARU



Ichijōdani Castle  
越前國広  
皇氏姓親王の御安御

Kitanoshō Castle



TOKEN  
FUKUI



NIKKARI AOE



OTE  
GINE



Castle  
Kanegasaki



Fukui Castle

KOGARASUMARU

HIRANO TŌSHIRŌ

福井県文書館1月・2月月替展示

# ゲームとつながる福井の歴史 — 刀剣と御城 — SEASON 2

2019.12.20(Fri.)-2020.2.19(Wed.)

福井県文書館閲覧室  
9:00-17:00

福井県文書館 Fukui Prefectural Archives  
〒918-8113 福井県福井市下馬町 51-11  
Tel:0776-33-8890 Fax:0776-33-8891  
Mail:bunshokan@pref.fukui.lg.jp  
Web:https://www.library-archives.pref.fukui.lg.jp

画像：一粟谷朝倉氏遺跡（福井市）金ヶ崎城址（敦賀市）丸岡城（坂井市）山里口御門（福井市）  
1781年（天明元）5月「装剣奇賞（序例、総論、雑述）」C0064-01261 久保文苗家文書（当館蔵）  
年未詳「続新刀銘尽 卷之五-卷之六（諸国新刀目利之書 山陽道八箇国、北陸道七箇国）」C0064-01264 久保文苗家文書（当館蔵）





## 主な展示資料

### 1 御城プロジェクト:RE～CASTLE DEFENSE～と福井

#### (1) 丸岡城「北陸に唯一現存する天守」

戦前に発行された丸岡城の天守を題材とした絵葉書です。現存する同様の古写真から、撮影年代は明治時代末期頃と推測されます。

最近の調査で天守の柱などの部材を調べた結果、建てられたのは寛永年間（1624～44年）だったことがわかり、天守は現存最古のものではないことがわかりました。

しかし、天守の外観が下層部の建築後に物見台などの望楼部分を載せる「望楼型」に対し、柱などの骨組みの構造には、下層部と上層部を一体的に組み上げる「層塔型」の特徴があります。

このような天守は全国的にほとんど例がありません。



「越前坂井郡丸岡霞ヶ城（絵はがき）」  
年月日未詳  
田中善右衛門家文書（当館蔵）  
A0177-00095

#### (2) 金ヶ崎城「兵糧攻めにあってひどい目に」

『太平記』は南北朝時代に成立した軍記物語です。後醍醐天皇の討幕計画から、建武の新政、南北朝の動乱に至る歴史過程を、南朝側の立場から描いています。

資料は大坂心齋橋筋順慶町の敦賀屋九兵衛が出版した『新刻太平記』で、17巻と18巻が1冊になっているものです。

1336年（延元元・建武3）、南朝方の新田義貞は体制を立て直すべく、恒良親王と尊良親王を奉じて金ヶ崎城に入城し、足利尊氏が派遣した北朝方の大軍と戦います。

紹介している部分は、金ヶ崎城が北朝方による兵糧攻めに遭っている場面です。義貞は城を脱出することに成功しましたが、城を救援することはできず、城は落城しました。



「新刻太平記 目録并綱 十七之八」  
年月日未詳  
坪田仁兵衛家文書（当館寄託）  
C0005-00527

#### (3) 福井城「この刀は父にもらったものだ」

「越前世譜」は福井藩が作成した公式の歴史書の一つで、資料は結城秀康の時代の出来事を記録したものです。

1600年（慶長5）、上杉景勝が挙兵し、徳川家康は下野国小山（栃木県）まで軍を進めます。しかし、これに乗じて石田三成が大坂で挙兵します。家康は三成と対決すべく西に向かうこととなり、景勝に対する備えとして子の秀康を残すこととしました。

紹介している部分は家康が秀康に秘蔵の太刀「稲葉郷（江）」を託す場面です。

稲葉郷は郷（江）義弘作の太刀で、稲葉勘右衛門が所持していたことが名前の由来です。秀康の死後は津山松平家に伝来し、現在は岩国美術館（山口県）で保管されています。



「越前世譜 秀康様御代（1）」  
1574年（天正2）～1607年（慶長12）  
松平文庫（当館保管）  
A0143-01799

#### (4) 一乗谷城「百年の 栄華を誇る 北ノ京」

「北陸七国志」は江戸時代中期の軍記物作家である馬場信意による作品です。

朝倉氏の9代朝倉貞景の代から関ヶ原の戦いの頃までの北陸地方における戦いを中心に描いています。

紹介している部分は室町幕府最後の将軍足利義昭が一乗谷に滞在していた際に開かれた宴の様子です。1568年（永禄11）の春、朝倉義景は義昭を南陽寺の庭園に招いてもてなし、義景や義昭らが和歌を詠んでいます。

ちなみに、この宴では朝倉氏の家臣である真柄直隆と子の真柄隆基が、大太刀（太郎太刀と次郎太刀）を振り回したり巨大な石を空中に放り投げたりしてその豪傑ぶりを披露しています。



「北陸七国志 三（北国全太平記）」  
年月日未詳  
山内秋郎家文書（当館蔵）  
X0142-00328



## 2 刀剣乱舞と福井

### (1) 三名槍の一本「御手杵」

『結城御代記』は結城家の歴史書の一つです。資料は伯爵松平家（松平大和守家）に秘蔵されていたものを1913年（大正2）6月に写したものです。

紹介しているのは天下三名槍の一つ「御手杵」の伝来を記している部分です。

御手杵は結城晴朝が所持していましたが、晴朝が結城秀康を養子に迎えて家督を譲ると秀康に受け継がれました。秀康の死後は松平直基に譲られ、以後は直基の家に受け継がれていきました。

資料中に登場する松平齊省は12代将軍徳川家慶の弟で、川越藩主松平齊典の養子となり、松平大和守家を継ぐとともに、御手杵を受け継ぎました。



「結城御代記」  
1852年（嘉永5）  
松平文庫（当館保管）  
A0143-02237

### (2) 小烏丸とともに出陣

『保元平治闘図会』は江戸中・後期の読本作家である秋里籬島による作品です。『保元物語』や『平治物語』といった軍記物語を図会形式にして、保元の乱と平治の乱を描いています。

紹介しているのは平治の乱における戦いの一つである待賢門の戦いを描いている部分です。待賢門とは平安京の大内裏外郭十二門の一つで、東側に面する南から二つ目の門、中御門とも呼ばれます。

1159年（平治元）12月26日、待賢門内に陣取った源義平の軍と平重盛の軍が戦いました。重盛は義平に敗れて敗走しますが、直後の六波羅の戦いで源義朝の軍を平清盛の軍が打ち破り、形勢は平氏側に傾きました。



「保元平治闘図会（巻之六〜八）」  
1801年（享和1）9月  
吉川充雄家文書（当館蔵）  
C0037-00636

### (3) 特権を安堵しましょう

木村常陸介は豊臣（羽柴）秀吉に仕えました。名は重茲、定光など諸説あります。

資料は常陸介が岩本村（越前市）の野辺四郎右衛門に対し、発給した安堵状です。蠟燭と蠟の商売の跡目を相続することを保証しています。

野辺四郎右衛門の家は古くから越前における蠟燭の販売に関する特権を有しており、常陸介もその特権を認めています。

また、冒頭の尚々書（追而書、本文を書き終わった後で改めて書き足した文章）では、野辺家の一族である久蔵を別に置くことを承認し、諸役を免除しています。



「木村常陸介安堵状（蠟燭・蠟商売諸事跡目ニ付）」  
12月5日  
内田吉左衛門家文書（当館蔵）  
X0025-00009

### (4) 小狐丸は福井にあった？

資料は松平吉邦の時代の出来事を記録したものです。

紹介しているのは、資料中に「小狐丸太刀」が登場している部分です。徳川吉宗の時代、小狐丸が越前にあるという風聞を耳にした幕府は1720年（享保5）2月、福井藩に対して調査を命じています。その結果、同年3月に安波賀春日神社において「小狐丸影」という太刀が見つかりました。しかし、これが本物の小狐丸であったのかどうかは定かではありません。

なお、松平春嶽（慶永）の『眞雪草紙』によれば、当時の幕府の寺社奉行からたとえ本物の小狐丸であっても、「小狐丸影」とするように密命があったといわれています。



「越前世譜 吉邦様御代（34）」  
1720年（享保5）～1721年（享保6）  
松平文庫（当館保管）  
A0143-01832



NO.	テーマ	キャプションタイトル	年代	資料名	資料群名 (所蔵者)	資料番号	複製本番号 - ページ
1	御城	丸岡城 「北陸に唯一現存する天守」	年月日未詳	「越前坂井郡丸岡霞ヶ城(絵はがき)」	田中善右衛門家文書 (当館蔵)	A0177-00095	A4235-P77 ~ P78
2		金ヶ崎城 「兵糧攻めにあってひどい目に」	年月日未詳	「新刻太平記 目録并鈔 十七之八」	坪田仁兵衛家文書 (当館寄託)	C0005-00527	C1694-PI ~ P97
3		福井城 「この刀は父にもらったものだ」	1574年(天正2) ~ 1607年(慶長12)	「越前世譜 秀康様御代(1)」	松平文庫 (当館保管)	A0143-01799	A4990-PI ~ P90
4		一乗谷城 「百年の 栄華を誇る 北ノ京」	年月日未詳	「北陸七国志 三(北国全太平記)」	山内秋郎家文書 (当館蔵)	X0142-00328	X2706-P75 ~ P103
5		北ノ庄城 「鬼柴田の安堵状、とくと見よ!」	1575年(天正3) 10月5日	「(柴田勝家安堵状)」	山内秋郎家文書 (当館蔵)	X0142-00004	X2676-P5
6	刀剣	三名槍の一本「御手杵」	1852年(嘉永5)	「結城御代記」	松平文庫 (当館保管)	A0143-02237	A5292-PI ~ P105 A5293-PI ~ P92 A5294-PI ~ P85 A5295-PI ~ P102
7		小烏丸とともに出陣	1801年(享和1) 9月	「保元平治闘図会(巻之六-八)」	吉川充雄家文書 (当館蔵)	C0037-00636	C2299-PI ~ P73
8		特権を安堵しましょう	12月5日	「木村常陸介安堵状(蠟燭・蠟商売諸事跡目二付)」	内田吉左衛門家文書 (当館蔵)	X0025-00009	X0499-P5
9		丹羽長秀ってどんなお方?	年月日未詳	「若狭守護代記(1-6、貞享4年の記事まで)」	桜井市兵衛家文書 (当館蔵)	N0055-00905	N1081-PI ~ P72
10		安波賀春日神社と小狐丸	1891年(明治24) 12月	「和田八幡宮修繕寄付申出書(付、安波賀春日社吉田運吉小狐丸二関スル書)」	松平文庫 (当館保管)	A0143-00708	A4132-P41 ~ P65
11	小狐丸は福井にあった?	1720年(享保5) ~ 1721年(享保6)	「越前世譜 吉邦様御代(34)」	松平文庫 (当館保管)	A0143-01832	A5020-PI ~ P118	
12	刀剣 関係 資料 これく しょん	装剣奇賞	1781年(天明元) 5月	「装剣奇賞(序例、総論、雑述)」	久保文苗家文書 (当館蔵)	C0064-01261	(否撮)
年月日未詳			「装剣奇賞 参(諸工名譜其一)」	C0064-01262			
統新刀銘尽		年月日未詳	「統新刀銘尽 巻之八(北海道六箇国、国不知)」	久保文苗家文書 (当館蔵)	C0064-01263	(否撮)	
	「統新刀銘尽 巻之五-巻之六(諸国新刀目利之書 山陽道八箇国、北陸道七箇国)」		C0064-01264				
14	万宝鄙事記	1705年(宝永2)	「万宝鄙事記 巻三・四(刀脇指、収獲、花香火、紙細工、染物)」	桜井市兵衛家文書 (当館蔵)	N0055-00897	N1073-P66 ~ P118	

背景画像：山里口御門(福井市)

山里口御門は「廊下橋御門」や「天守台下門」とも呼ばれていた福井城本丸の西側を守る枡形門でした。

江戸時代初期から本丸の西につながる西二の丸には松林があり、山里丸と呼ばれていました。山里口御門は、この山里丸から本丸への入口の門として、築城当時に造られました。1669年(寛文9)の火災で焼失してしまいましたが、その後再建されました。藩主の住居である御座所が西三の丸にあった松平春嶽(慶永)などの時代には、藩主は御廊下橋を渡って、山里口御門を通して本丸へ向かったと考えられています。

しかし、明治時代に入ると、福井城の建物は取り壊され、外堀も埋め立てられてしまいました。

近年の福井県の事業により櫓門、棟門、これら2つの門とともに枡形を形成する石垣上の土堀が復元されました。

